

令和7年度第3回箕面市社会教育委員会議 議事録

- 1 日時 令和8年(2026年)3月17日(火)午前10時～11時55分
- 2 場所 箕面市役所 別館6階会議室A
- 3 出席者
(社会教育委員) 野崎委員(議長)、九後委員(副議長)、入江委員、日根委員、山本委員、山根委員、藤田委員
(事務局) 浅井担当部長、遠近担当副部長、小木曾室長、谷尾室長、徳留室長、多々館長、皆川室長、上野室長補佐、清水
(傍聴) あり

【1. 開会】

○部長からの挨拶(概要)

本日をもって、昭和34年から長きに亘り箕面市の社会教育を支えた当会議は最後となり、来年度からは生涯学習審議会へ発展的統合を行う。本日最後の社会教育委員会議となるが、委員の皆さまから貴重なご意見やご提案をいただき、今後の社会教育の充実に活かしていきたい。

(事務局)

社会教育委員会議について、10名中7名の委員が本日出席。過半数の出席があるので、箕面市社会教育委員会議規則第3条第2項の規定により会議は成立している。

【2. 報告 来年度事務局の体制について】

(議長)

来年度から生涯学習審議会と発展統合するにあたり、本日の協議題で話し合った内容を取りまとめ、社会教育委員会議から次の生涯学習審議会協議題として引き継いではどうかと考えている。

(事務局)

来年度の機構改革に伴う事務局の体制について、令和7年第4回定例会で箕面市事務分掌条例が可決され、来年度から生涯学習分野については、教育委員会の子ども未来創造局から市長部局の人権文化部の所管となる。

また、現在令和8年第1回定例会で審議中ではあるが、社会教育委員会議との統合に向けた生涯学習審議会条例の改正を議会へ上程している。

可決されると、3月31日をもって箕面市社会教育委員に関する条例は廃止され、それ

に伴い委員のみなさんの任期も終了する。

(議長)

この時点で委員の皆さんから質問があるか。

(委員)

来年度の生涯学習審議会へ統合されるにあたり、構成メンバーはどうなるのか。

(事務局)

社会教育委員会議と生涯学習審議会のメンバーの中で団体推薦が重複している団体からは1名となる。所属の区分は維持したまま統合を考えている。委員の移行については個別にご案内をさせていただく。

【3. 協議 協議題①「まちの未来像を考える」 協議題②「生涯学習分野での推進方策を考える」】

(議長)

前回の会議で駆け足の説明となったが、生涯学習指針に書かれているとおり、箕面市がめざす生涯学習社会は、生涯学習社会を推進することにより、市民が箕面市に愛着を持ち、生涯学習で得た知識や経験を、地域の課題解決と将来のまちづくりに生かす社会をめざすとある。これが本市としてのキーワードであり、社会教育委員で取り組むべき課題であるとする。社会教育の分野において課題をどう解決するかを協議したい。

まず、協議の手順としてはグループに分かれていただき、生涯学習指針の内容でフォーカスしたいことを、各委員から発表していただき、そのフォーカスした内容がどの分野にあたるのか(文化振興なのか、スポーツ振興なのかなど)をグループ毎に考えてもらい、審議テーマとし上に一段階あげる形でまとめていきたいと考えている。例えば、管弦楽団の補助金カットが課題であるということであれば、市としての文化振興をどう考えていくかということが、審議テーマになるといったイメージである。そして最後に全体での協議を行う。

○2グループに分かれ、「まちの未来像を考える」「生涯学習分野での推進方策を考える」について協議の後全体協議

(各委員)

- 郷土資料館の場所が以前の駅前に比べると良くないと思うので、PRの強化やコンテンツの充実で普及して欲しい。学芸員が常駐しているということで、今後より活用されていくことを期待している。

- 来年度スカイアリーナに設置される予定のバスケットゴールについて、広くPRをしてもらい、市民の皆さんに認知してもらいたい。
- 文化芸術については、みのおキッズシアターが終了するので、代わりに市で取り組んでもらえたら嬉しい。箕面市で育って箕面を離れた子ども達が、また箕面に帰ってきて学びの場で教えるというものがあればいいのではと思う。
- アートの街ということであれば、美術館を作るなどを投げかけてはどうか。
- 市民展の応募数が減ってきており、かつては600点あったが、今は170点を下回ってきている。今後どうしていくかなど課題があると思う。市民展に出品するには、ハードルが高いと思っている人がいたり市民展の内容を知らない市民も多くいる。絵を描いている障害のあるかたやシニアの方に、市民展をもっと知ってもらいたい。市民団体の中で文化団体の横の繋がりを持ち、広がりが出て来ればと思う。
- 箕面市の市街地部分は東西に広がり、西部と中央部にそれぞれ阪急電車と北大阪急行線の終着駅が1つずつあり、市民も阪急沿線派と北急沿線派がいる。箕面萱野駅周辺が発展したとしても、阪急沿線派の人は普段行くことが無いのでピンとこない。北急沿線には箕面船場阪大前駅に市民ギャラリーがあり、阪急沿線には文化・交流センター南館や新サンプラザがある。それを繋ぐように交通の便を充実させることができればと思う。
- 部活動の地域展開について、文化活動団体がもっと貢献できるのではないかなと思う。
- 文化行政について、市長の4年間の任期で考えるのではなく、中長期的な長いスパンで方向性を考えて欲しい。
- 部活動地域展開と生涯学習は切っても切れない関係である。地域展開をポジティブにとらえて生涯学習環境作りとなって欲しいと思う。政治的なことに捕らわれることなく、市長が変わっても長く続けるしくみ作りを期待している。
- 私は普段図書館で活動をしている。箕面市は読書に力を入れており、昔から紙芝居の収集をしていて、貴重な紙芝居資料がある。郷土資料館と図書館が協力し、文化としての紙芝居を残して欲しい。紙芝居まつりは今後も行い続けていきたいと考えている。
- 郷土資料館の職員全員が学芸員の資格があるのは嬉しい。内容も充実し継続性もあると思う。交通の便は北大阪急行線が延伸になったことで、船場エリアから市役所へのアクセスが不便になった。イベントをする時に交通の便も考えて企画をして欲しい。
- 郷土資料館は他の市では古民家を活用したケースが多い。箕面市はビルの中に郷土資料館があるので、イメージが違うと思う人もいると思う。川西市の社会教育委員の会では郷土資料館をテーマに2年間協議をした。
- 職員や委員の皆さんが一生懸命考えて、社会教育や生涯学習をより良くしていこうという姿勢を見ることができ、感謝している。箕面で子育てをしているので、より良くなって欲しいと期待している。学校からのお知らせも社会教育委員になってしっかり見るようになった。箕面をより良くしたいと思う人たちが企画しているんだなと具体的なイメージが持てるようになった。社会教育委員になって視野が広がった。

(議長)

知れば知るほど好きになるということが、学びであると思う。箕面市教育大綱実行計画にも記載があり、皆さんの意見をいただいた内容を考慮すると、①郷土資料館②アート③スポーツがテーマになると思う。

文化芸術振興というところでは、東エリアと西エリアとの交流や縦のつながりを重視した子ども達への生涯学習機会の提供などに話題が集まったと思う。

部活動の地域展開は、学校教育が担当する分野なので、生涯学習審議会には提案しにくいと思う。

議事をまとめ、次回の生涯学習審議会へ継続していきたいと思う。住みやすいまちはみんなが好きになるまちであると思う。

【4. その他(諸連絡)】

○配布チラシや会報について説明。

(議長)

そのほか意見等はあるか。

(委員)

社会教育委員会議と生涯学習審議会の統合により、議員からの選出はなくなるが、今後は傍聴者として参加していきたいと思っている。

【5. 閉会】

○部長からの挨拶(概要)

委員の皆さまのこれまでの多大なるご尽力に感謝するとともに、4月からの組織機構改革により、これまで教育委員会が所管していた文化、スポーツ、図書館など生涯学習分野や社会教育機関を市長部局へ移管する。これにより、教育分野にとどまらず、地域振興や健康づくりなど他の行政分野とも連携し、総合的に生涯学習を推進し、より効果的で質の高い行政サービスの実現をめざす。

以上